

# 木の技

おかやまの木工芸いまむかし

平成19年

9月22日(土) ▶ 11月7日(水)

岡山市デジタルミュージアム 4階企画展示室(岡山駅西口正面)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日 月曜日(ただし月曜日が祝日にあたる場合は翌日が休館日)

入場料 前売券 600円(一般のみ)

当日券 一般/800円 65歳以上・大学生・高校生/600円

\*障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名、及び中学生以下は無料

\*20名以上の団体は当日券の100円引

前売券発売所 ローソンチケット(Lコード 65277) チケットぴあ(Pコード 687-469)

主催/岡山市デジタルミュージアム

後援/岡山県、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山市連合町内会、岡山市連合婦人会、岡山市老人クラブ連合会、岡山県小学校長会、岡山県中学校長会、岡山県高等学校長協会、岡山県PTA連合会、岡山県高等学校PTA連合会、財団法人岡山県郷土文化財団、社団法人林業共済会、日本工芸会中国支部、山陽新聞社、岡山日日新聞社、中国新聞備後本社、朝日新聞岡山総局、読売新聞大阪本社、毎日新聞岡山支局、産経新聞岡山総局、日本経済新聞社岡山支局、岡山リビング新聞社、NHK岡山放送局、OHK岡山放送、RSK山陽放送、KSB瀬戸内海放送、TSCテレビせとうち、西日本放送、西日本旅客鉄道株式会社岡山支社(順不同)

岡山市デジタルミュージアム





「大鋸挽き図・紙本金陵山縁起絵巻」江戸時代前期 西大寺観音院蔵



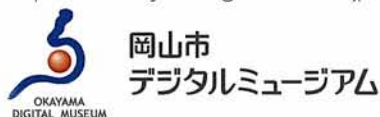
「赤彩紋高杯」弥生時代中期 岡山市埋蔵文化財センター蔵



「赤彩紋縦杓子」弥生時代中期 岡山市埋蔵文化財センター蔵



■交通案内 岡山駅西口正面  
 ■お問い合わせ  
 〒700-0024 岡山市駅元町15-1  
 TEL.086-898-3000  
<http://www.okayama-digital-museum.jp/>



乾漆油漆堆錦彩華文合子／山口松太作

◆講演会(定員各80名・参加費無料)

いずれも会場は岡山市デジタルミュージアム4階講義室、  
 時間は13時30分～(受付は13時～) 事前予約不要

★9月22日(土) 記念講演会

- 三田村有純〔東京芸術大学・教授〕  
「漆芸」海外からの眼差し」
- 山口松太〔県指定無形文化財〈漆芸〉保持者〕  
「伝統技術における独創性の確立」

★9月29日(土) 『おokayamaの漆芸・木工芸の先達を語る』

- 國本敏雄〔県指定無形文化財〈指物〉保持者〕  
「わが師大野昭和齋」
- 森田翠玉〔県指定無形文化財〈削物〉保持者〕  
「わが師太田芝山」
- 和田海山〔日本工芸会正会員〕  
「わが師和田松山」
- 山口松太〔県指定無形文化財〈漆芸〉保持者〕  
「わが師難波仁齋」

★10月6日(土) 『伝統工芸復興への歩み』

- 高月国光〔郷原漆器生産振興会〕  
「郷原漆器」
- 小野忠司〔林原共済会・漆の館〕  
「備中漆」
- 高山雅之〔岡山県郷土文化財団参与〕  
「伝統工芸の復興」

★10月20日(土) 『岡山市の木竹工芸』

- 小川一洋〔県指定無形文化財〈指物〉保持者〕  
「木工芸・指物」
- 平松龍四郎〔岡山市選定保存技術 三杉堂会長〕  
「竹工芸・撫川うちわ」

★10月27日(土) 『おokayamaの漆芸・木工芸の軌跡』

- 扇崎由〔岡山市教育委員会主査〕  
「おokayamaの漆芸・木工芸の源流-南方遺跡の木器を中心に-」
- 根木修〔当館学芸員〕  
「日本の近代化と伝統工芸の揺籃」

◆ワークショップ(4階ロビー・参加費無料)

- 「手引轆轤の実演」  
日時：10月6日(土) 午前11時～ 午後3時30分～  
講師：高月国光〔郷原漆器生産振興会〕
- 「撫川うちわの製作」  
日時：10月20日(土) 午前11時～ 午後1時～

# うらしの技 木の技

おokayamaの木工芸いまむかし

岡山の風土に生まれ伝承されてきた各種の工芸技術は、折々の改良や試行錯誤を繰り返しながら磨き抜かれた技術体系として組み上げられ、永い歳月とたゆまぬ努力により修得した人々によって伝統工芸として発展してきました。

岡山の伝統工芸には、備前焼をはじめとして、漆芸や木工芸、金工芸等があります。こうした伝統技術は近代化への歩みの中、厳しい条件下で技術伝承さえもが危惧される時代を経て、資材確保や技能後継者養成への取組みが、近年ようやく実を結び、新たな時代を迎えようとしています。

今回の特別展では、これまで体系的に取りあげられることの少なかった岡山の漆芸や木竹工芸に焦点を当て、市や県の重要無形文化財に指定された現代の技術保持者の作品だけでなく、各時代の作品や制作道具を一堂に集めて日本の伝統技術の奥深さや精緻さ、その芸術性を広く公開し、永い伝統に裏打ちされた芸術性と高度な技術体系をご紹介します。